令和５(2023)年度

# 教養ゼミ　（初年次教育科目）

# 実 施 状 況 報 告 書

福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

## 【　目　　次　】


| | |
|---|---|
| 経済学部　経済学科 | 1 |
| 経済学部　国際経済学科 | 3 |
| 経済学部　税務会計学科 | 4 |
| 人間文化学部　人間文化学科 | 5 |
| 人間文化学部　心理学科 | 7 |
| 人間文化学部　メディア・映像学科 | 9 |
| 工学部　電気電子工学科 | １０ |
| 工学部　建築学科 | １１ |
| 工学部　情報工学科 | １２ |
| 工学部　機械システム工学科 | １３ |
| 生命工学部　生物科学科 | １６ |
| 生命工学部　健康栄養科学科 | １８ |
| 生命工学部　海洋生物科学科 | ２０ |
| 薬学部 | ２２ |

# 経済学部　経済学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）　田中　征史
吉田　卓史、三川　敦、石丸　敬二、李　森、早川　達二、中村　和裕、野田　光太郎、
村松　悠次、助田　暁、野村　宗訓、高羅　ひとみ、藤本　倫史、北浦　孝、藁谷　達至

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

令和5年度新入生174名を、学生番号順に15クラスに分割し、1クラスあたりの学生数は11～12名で実施した。

## ■ 実　施　内　容

令和4年度から大幅に授業形態を変更し、全授業回の9割を対面で実施し、遠隔授業回は3回に減らして実施した。コロナ禍の授業実施ルールで定められていたような感染防止のための座席間隔の確保が不要となったため、令和5年度の授業からは対面実施回を大幅に拡大させることが可能となった。ただし、動画教材による繰り返し学習が効果的と判断した一部の授業回では、動画教材の閲覧と課題提出を主とする遠隔授業を実施した。本科目では、初年次教育として新入生が大学での学習にスムーズに移行できることを目的としており、Cerezoでのレポート提出やOutlookのメールの送信などの実習、レポートの書き方の実習のほか、資格検定試験の対策講座やグループワークなどを行った。

【クラス担任別の実施内容】
・Cerezoを使ったレポート提出の実習、Outlookを使ったメール送信の実習（2回、対面）
・グループワーク（3回、対面）
・学習指導を含むガイダンス等（6回、対面）

【受講生全体での実施内容】
・ビジネス能力検定対策講座（16回、対面）
・レポートの書き方講座（3回、遠隔）

## ■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果をあげている。円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを重視する。また、大学生活を通じて資格取得を促進させる目的で、ビジネス能力検定試験の対策講座を教養ゼミ内で実施した。また、レポート作成の演習により、基礎的なライティングスキルの向上を図った。

## ■ 成　　果

令和5年度経済学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

・ビジネス能力検定3級合格者が91名（昨年度は71名）、2級合格者が40名（昨年度は45名）となった。昨年度と比べると、2級合格者が微減となったものの、3級の合格者は20名増加しており、初年次学生のビジネス知識の習得や資格取得への意識向上につながる取り組みとして高い成果をあげることができた。
・クラス担任別の対面授業回にグループワークを行い、最終的には、プレゼン発表を行うという授業を導入した。グループ内でリーダーを中心に協議や作業分担を行い、プレゼン発表をさせるという、新入生にはやや難易度の高い授業内容であったが、アクティブラーニングとしての学習効果も高く、新入生の熱心な取り組みが見られた。

## ■ 課　　題

・ビジネス能力検定対策講座を実施した授業回では、クラス担任別ではなく、全クラス合同で授業を行ってきたが、当該授業回における学生の出席率の低下が目立った。当該授業期間ではクラス担任と顔を合わせる機会が減るため、欠席数が増加した学生に効果的な学習指導が行えなかった可能性が高い。令和６年度より、クラス担任別授業がない期間であっても、教養ゼミの授業時間外で個別面談の実施を各クラス担任に依頼することで、学生の授業出席率の向上を目標とする。

# 経済学部　国際経済学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）ビセット・イアン・ジェームス、白 映旻、佐野 穂先、高山和夫

## ■ ゼミの学生数

24 名（うち留学生 4 名）

## ■ 実　施　内　容

学生用ツール：電子メールの使い方及び正しいメールの書き方
学生用ツール：大学での勉強方法（図書館の利用方法など）
学生用ツール：プレゼンテーションの方法と、英語と日本語のプレゼンテーション資料の作成方法
学生用ツール：小論文の書き方、Microsoft word を使った正しい出典の引用方法
学生用ツール：Microsoft excel の簡単な分析モデル
学生用ツール：三蔵祭に向けて、テーマを設定の上、プレゼンテーション資料を作成、発表

## ■ 教養ゼミの成果等

例年に比べて、メールのマナーなど、教員とのコミュニケーション能力が向上した。
令和４(2022)年度に比べ、可能な限り多くの対面授業を実施した。(具体的にはクラスをいくつかのチームに分けてグループを作り、年間を通して生徒とのコンタクトを維持した。)
結果的に学生は継続的に大学や教員とのつながりを維持することができた。

## ■ 問題点，改善点及び対応策

グループが、特定の集団に固まる傾向が見られたので、なるべくシャッフルするように努めたが、その点は、来年度の課題として残った。今後は、毎回グループを編成しなおすことで、クラス全体でコミュニケーションが取れるような価値づくりに注力していく予定。

# 経済学部　税務会計学科

## ■ 担当者氏名

（代表）荒木利雄、白木康晴、張　楓、関下弘樹

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

41 名（１年次生 40 名、３年次生１名）

## ■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として、受動的な学び方、能動的な学びへの転換点であることを踏まえ、学びのスタイルをスムーズに移行できるよう注力した。また、大学生活において目的をもって過ごせるよう、目標設定と振り返りを学期ごとに行った。さらに、レポートの書き方を指導するなど、基礎的なアカデミックスキルの獲得に努めた。

## ■ 授業のねらい

広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解し活用できる人材を育成することを目標としている。教養ゼミでは、各自が充実した大学生活を送り、卒業後は社会で広く活躍できる人材となれるよう、大学生活を送るための学習支援や大学内の各施設の利用案内等を実施する。

## ■ 実施内容

・ガイダンスと履修指導（履修登録状況の確認など）
・大学施設案内と利用（図書館ガイダンスへの参加・学修支援サービス・就職課・自分未来創造室・国際センター・保健管理センター・学生相談室・ICT サービスセンターなど）
・学生生活上の注意点（不審な勧誘、SNS、悪質商号、ネットワークビジネス、健康被害（薬物乱用、飲酒、喫煙、ハラスメント、情報セキュリティなど）
・大学生活での目標設定と大学生活の振り返り（前期・後期）
・担任による個人面談（前期・後期）
・アカデミックスキルの基礎として、レポートの書き方講座（レポートの作成方法を知る、レポートを作成する）
・ビジネス能力検定講座（前期３級・後期２級）

## ■ 成果

・担任教員による個別面談により、個々の学生の学修状況や大学生活での悩みや不安などに対応することができた。
・ビジネス能力検定試験に積極的に受験し、３級・２級共に多くの学生が合格することができた。

## ■ 課題

・より充実した大学生活を過ごすことができるよう、目標設定と振り返りの時間を設定したが、個別に指導していく時間を設定する必要があるように思われた。
・ビジネス能力検定といった資格試験の必要性をよりわかりやすく説明し、検定試験受験率・合格率を高めていく必要がある。

# 人間文化学部　人間文化学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）　古内 絵里子

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

全１年次生 42 名

## ■ 授業のねらい

（１）１年次生が教員全員と顔を合わせるとともに、お互いに交流を深める。
（２）大学における学修への動機付けを高める。
（３）卒業時の到達目標を明確に意識することで、自分に自信を持つ。

## ■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。
＊コミュニケーション能力の基礎となる力：聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自らの考えを表現する、プレゼンテーションする力など。

## ■ 実　施　内　容

（１）１年次生を３班に分け、学科教員がオムニバス的な授業を行った。
但し、第２、３回は２班に分けて実施、また第１、４、11、15 回は全員で実施した。

（２）各教員の講義に先だち、事前学習用の資料をセレッソを通じて配布した。また講義中には、配布資料をふまえた発言を求める機会を設けた。さらに、期末レポートの執筆のため、また受講者の思考をより深めるための参考文献も提示した。

（３）各教員のテーマは下記の通りである。
・小原：「ジョン・デューイを追いかけて」
・古内：「建築で見る日本古代史」
・村上：「映像資料を疑う：歴史におけるプロパガンダ」
・青木：「文学の役割」
・重迫：「韻数文解：詩の言葉を分析する」
・竹村：「～を語ること、語り直すこと」
・原　：「記憶の文化―第２次大戦後のドイツ―」
・清水：「祈りの行動学」
・柳川：「味覚の歴史を考える」

（４）講義計画
第１回（4/13）　ガイダンスと研究倫理教育
第２回（4/20）　図書館／保健管理センターのガイダンス
第３回（4/27）　図書館／保健管理センターのガイダンス
第４回（5/11）　新入生レクリエーション
第５回（5/18）　オムニバス講義①（重迫、古内、村上）

第６回（5/25）　オムニバス講義①（重迫、古内、村上）
第７回（6/1）　オムニバス講義①（重迫、古内、村上）
第８回（6/8）　オムニバス講義②（柳川、原、小原）
第９回（6/15）　オムニバス講義②（柳川、原、小原）
第 10 回（6/22）オムニバス講義②（柳川、原、小原）
第 11 回（6/29）学期末を迎えるにあたっての注意点：レポート、定期試験対策（古内）
第 12 回（7/6）　オムニバス講義③（青木、清水、竹村）
第 13 回（7/13）オムニバス講義③（青木、清水、竹村）
第 14 回（7/20）オムニバス講義③（青木、清水、竹村）
第 15 回（7/27）学期のまとめ（全員）

（５）評価

各講義に関するコメントシートの提出に加え、期末レポートを課した。課題は、「授業全体を通じて関心を抱いた、あるいは考えたことをまとめる。その際、授業中に紹介された文献、あるいは自分で調査した参考文献を用いること」とした。

## ■ 教養ゼミの成果

セレッソに提出された学生からのコメント、期末レポートの内容から提出した学生については全員が到達目標に達した。採点については、学科教員が分担し、最終的には学科会議において教員全員で確認した。とくに、教養ゼミの枠内にとどまらず、その他の講義の内容とも結びつけて考察を深めた学生が複数いたことは大きな成果と考える。

## ■ 問題点、改善点、対応策

昨年度に引き続き、本年度はすべてのプログラムを対面で実施することができた。そのため学生と教員との間でコミュニケーションをとれたことは成果である。また１年次生に教員の研究の一端を紹介できたことも重要だった反面、学生の取り組みに大きな差異が認められたことは否定できない。欠席が目立つ学生、自主的に取り組む姿勢に欠ける学生へのフォローは次年度も課題であることを申し添えておきたい。

# 人間文化学部　心理学科

## ■ 担 当 者 氏 名

中島　学、枝廣 和憲、金平 希

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数3、各ゼミに22名もしくは23名の1年次生が所属した。

## ■ 実　施　内　容

＜前期＞

● ピア・サポート訓練（教員＋SA）
　自己紹介ゲーム、エゴグラム（性格検査）の実施、他者への印象、傾聴

● レポート作成を学ぶ（教員）
　レポートの書き方に関して講義。レポートとは何か、レポートを作成する際の注意点、アカデミックライティングのコツ、“コピペ”の禁止、メールの書き方、について解説した。また、履修生はこの講義に関する要約型レポートを提出した。

● ブルガリア・EU における教育の最新情報
　ソフィア大学のシルビア教授の来校にあわせ、ソフィア大学の教育環境・内容を英語（通訳あり）で講義していただき、学生からの質疑応答の時間を持った。

● 新入生歓迎会（２年次生主催）
　２年次生が主体となってドッヂボールを体育館にて実施。

● 保健管理センター学生相談の案内

＜後期＞

● スタディスキル（教員＋SA）
　文章要約の方法、論文の構成・読み方、論文の要約

● ビブリオバトル
　グループで図書を一冊用意し、それについて、スライドを用いて発表した。

● 保健所によるゲートキーパー講座

## ■ 教養ゼミの成果

【授業全般】

担任別の３つのゼミ個別での実施と、３ゼミ合同での実施の２形態を取り混ぜながらゼミを展開した。

前期は、ピア・サポート訓練（個別）、レポートの作成方法（個別＋合同）、学生相談に関するガイダンス（合同）、新入生歓迎会（合同）が主な内容であった。ピア・サポート訓練では、「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに、学生同士がサポートしあうためのスキルの訓練を行なった。レポートの作成方法については、2023年度担当教員３名が協議を重ねて講義資料を作成した。レポートが作文や小論文とどのように異なるのか、どのように書けば説得的に書くことができるのかについて、アカデミックライティングの技法を解説した。また、コピペがなぜ許容されないのか、適切な引用を行うための知識を解説し、研究倫理に関する知識も深めた。履修生はこの講義について「要約型レポート」を作成した。

後期は、スタディスキル（個別）、ビブリオバトル（個別）が主な内容であった。スタディスキルでは、文章の要約方法、論文の読み方から要約方法について、本学科教員が執筆した論文を題材として学習を行った（山崎他（2005）大学生へのピア・サポート訓練による自尊感情や自己開示、社会的スキルへの効果の検討）。また、ビブリオバトルでは、グループディスカッションや発表等の活動を通して、グループでの役割、課題を見つけるところから発表までのプロセスを経験した。

【SAからのサポート】

ピア・サポート訓練、スタディスキル、ビブリオバトルでは、各ゼミ１名の SA を利用し、活動の補助が行われた。上級生が SA として授業に参加することで、１年次生のピア･サポート訓練の効果が上がり、グループワークがスムーズに進むなど、学年を越えた交流が促進された。

## ■ 今 後 の 課 題

欠席回数の多い学生への対応を考えていく。グループワーク等に積極的に参加できない学生へのサポートを SA を含めての具体的に検討する。

## ■ 特　記　事　項

心理学科教員が作成した冊子（ピア・サポート訓練のテキスト）を１年次生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションは昨年同様に中止となった。他方、新入生オリエンテーションでは学生サポーターが中心となり時間割指導などが実施され、２年次生が主体となり体育館でのレクリエーションを企画・実施し、新入生同士のコミュニケーションを促進し、仲間同士で支えあう風土を築くための活動が積極的に展開された。

# 人間文化学部　メディア・映像学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）：内垣戸 貴之

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数：4（一年次担任：中嶋、田中、安田、内垣戸）
ゼミの学生数：13 名程度

## ■ 前期実施内容

- 履修登録など教務関係のガイダンス
- Zoom や Zelkova、Cerezo、Office365 等、ICT 環境のガイダンス（遠隔講義への対応含）
- 少人数ゼミ（大学での学びについて、ゼミ学生の交流、SNS の活用について、等）
- 就職に関するガイダンス、各教員の専門性から見たメディア・映像学科についてのレクチャー
- チームビルディングを通した、クラス内交流

## ■ 後期実施内容

- 教養講座への参加を基本とし、受講についての連絡や情報共有をしつつ、個別に面談を実施し、受講態度や課題への取り組み方などを指導した。

## ■ 前期教養ゼミの成果

受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

少人数ゼミと全体ゼミをバランスよく実施し、学生と教員との交流や学生間での交流の機会を設けることで、孤独感や孤立感を緩和し、共に学修する仲間がいることを意識させるようにしたことで、文献購読や資料調査など、一つ一つの課題に取り組む力が身についたように思われる。

## ■ 問題点，改善点

学生数が増加傾向にあり、異学年を含めた各学生間のつながりをどのように構築・維持していくのかが課題になっている。特に中心的な学習の場となる 19 号館において、少人数ゼミに対応できる環境が十分ではないこともあり、学生同士のコミュニケーション機会をより創出していくための内容検討・環境構築を進めている。

# 工学部　スマートシステム学科

## ■ 担当者氏名

代表：伍賀　正典
仲嶋　一、歌谷　昌弘、田中　聡、香川　直己、関根　康史、関田　隆一、菅原　聡、沖　俊任、伍賀　正典

## ■ 実施内容

1 回目（4/10）　自己紹介
2 回目（4/17）　数学習熟度試験、授業の受け方、ノートの取り方
3 回目（4/24）　授業の受け方、ノートの取り方（続）、図書館ガイダンス
4～7 回目（5/1～ 5/29）　小グループゼミ
8 回目（6/5）　これまでの教養ゼミの協働ワークの紹介
9～15回目（6/13、6/20、6/27、7/4、7/11、7/18、7/25、8/1）　グループワーク

## ■ 教養ゼミの成果等

- 初回では授業のオリエンテーションと、各自の自己紹介を行った。
- 2 回目では、数学の習熟度をみるための試験を実施した。
- 3 回目では、基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。その後、附属図書館に移動し図書館ガイダンスを受講した。
- 4～7 回目では、初回で実施した数学テストの結果から小グループに分けた。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8～15 回目まで、グループワークとしてテーマごとに分かれて協働作業を行った。各班のテーマは、ロボットのキットを用いたイベントの実施、電子デバイス製作のプロジェクトである。ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール、グループでの協調作業を経験した。
- グループワークのチームをもとに、学生有志が成果物を三蔵祭で展示することができた。また、これらの成果を展開することで 1 年生の有志メンバーが２月に岡山で開催された、岡山テックグランプリで口頭発表を行った。

## ■ 問題点，改善策，後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミのグループワークを出発点とし、チームを育成し、学外イベント等への参加を試みている。今回のグループワークにおいても、学園祭での展示、技術系のコンテストでの発表の成果を出すことができた。
- グループでの作業は学生間の交流を深める狙いがあるが、今回の受講者が少数であったため、従来のようなイベントに大掛かりな製作展示を行うことが困難であり、一部学生に負荷がかかる状況が発生した。これらの対策を考慮していかなければならないと感じた。
- 今回の教養ゼミでも、共同作業を実施することでメンバーの親睦を深め、大学での学びや活動に関して興味と関心を高めていくことを試みた。少ない受講者であったが、大学祭のイベント展示も成功し学外での発表も実施することができた。大学の初年次教育の科目という点を鑑みると、学生の興味を惹き、意欲的に取り組んでもらえる課題を提示していくことは望ましい方針であり、今後も深化させていくべきと考える。また、大学での学びのための準備という面では、共同作業での“ものづくり”の体験をベースに、学修や実習での知識や技術の習得に関するモチベーションを上げることに役立っていると考えている。

# 工学部　建築学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表・１年担任）田辺和康、伊澤康一、酒井要
梅國章、大島秀明、河口佳介、佐々木伸子、佐藤　圭一、都祭弘幸、藤原美樹、山本一貴

## ■ 教養ゼミの目的

建築の諸学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった文系から理系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。
自分が建築学科での学びにおいて、どのジャンルについて取り組んでいきたいかを決めていくための第一歩として、各教員の専門性を活かした内容の少人数ゼミナール形式によるグループワークによって「建築」が取り組むジャンルや内容についての理解を深め、「建築に対する興味」の掘り起こしのキッカケづくりとしていく。

## ■ 実　施　内　容

授業は、建築への興味と理解を深めていくために、７～８名の学生を全教員がゼミ形式で分担して担当し、第２～14回までを各ゼミ単位でのグループワークを PBL（Problem-based learning：課題解決型学習）形式で進め、学生自らが課題を探すことから取り組みを始めた。
各ゼミ単位での取組みにおいて、次の３項目を共通事項としている。
１）対象フィールドは、松永を中心とした備後地域（松永・福山・尾道）を対象にする。
２）設定した「共通テーマ」を基に、各研究室で取組む具体的なリサーチ課題を設定する。
３）具体的に取り組む内容は、各研究室の専門性・特徴を生かした視点・内容で設定する。

Ｒ５年度も、「地域の課題を解決する」を共通テーマとして、各ゼミで決めた内容について取り組んだ。第１回は、製図教室に集まり、授業ガイダンスと配属ゼミの発表を行い、第２～第14回は各ゼミ単位でのグループワークを実施し、取り組む課題の設定からリサーチ、発表資料の準備などに取組んだ。
第15回は、各ゼミで取組んだ課題についての発表会を製図室２・３で実施した。発表会は、成果物をまとめたパワーポイントで資料を準備し、発表時間５分、質疑応答３分の発表形式で実施した。

## ■ 教養ゼミの成果

少人数グループワーク形式で課題に取り組んだことで、少人数体制だから可能となる濃密な意見交換・討論や共同作業で実施する資料リサーチや発表資料作りなどの学修活動を展開できた。

## ■ 課　　題

成績評価方法として、ゼミ担当による各ゼミ生の取組み評価（50点満点）と教員による各ゼミは票の評価（50点満点）で評価した。今後、さらに学生らの問題意識を高めていくために、学生間での相互評価を評価指標に組み込み、お互いの取り組み内容への関心を高める工夫に取組みたい。

# 工学部　情報工学科

## ■ 担当者氏名

（代表）宮崎光二
尾関孝史、山之上卓、金子邦彦、中道上、池岡宏、今井勝喜、宮崎光二、森田翔太、天満誠也

## ■ 目的

１年次生に対し初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

## ■ 実施内容

授業の実施では、Cerezo を活用した教材配布やアクティブラーニングを行った。具体的な実施内容は以下のとおりである。

第１回 04/12　学科紹介，学生生活関係＆ ESET のインストールなど
第２回 04/19　教務 履修指導，Microsoft365 紹介＆アプリ版 インストール
第３回 04/26　PC 室のパソコン、資格取得＆メールの書き方
第４回 05/10　図書館について、マナーアップキャンペーン(掃除)
第５回 05/17　PowerPoint の基本、Web 版 PowerPoint、OneDrive、クラウド(Office365)
＜教養講座 第１回＞ 05/24
第６回 05/31　Word の基礎(1)
第７回 06/27　- 特別講演会 -「クラウド（ AWS ）の動向や実態について」Zoom
第８回 06/28　Excel の基礎(1) 数式、罫線、セルの書式など
＜教養講座 第２回＞ 07/06
第９回 07/12　レポートの書き方＆Critical Thinking＋ Excel の基礎(2)
＜教養講座 第３回＞ 09/29
第10回 10/27　三蔵祭 スタッフ
＜教養講座 第４回＞ 10/31
＜教養講座 第５回＞ 12/04

## ■ 成果等

教養ゼミを通して、大学生活の過ごし方や大学施設の利用方法を学んだ。少人数のグループにわかれて Microsoft365 の共同作業を行い、クラウド環境に慣れると同時に、学生同士のコミュニケーションの機会を設けることにより、学生同士の親密度が向上した。Word、Excel、PowerPoint の基礎を復習し、今後の大学生活で必要なＩＣＴリテラシーについて確認した。１年次生の持つＩＣＴスキルは差があり、その点についても配慮しながら授業を実施した。

# 工学部　機械システム工学科

## ■ 担 当 者 氏 名

木村純壮、真鍋圭司、坂口勝次、加藤昌彦、中東 潤、中村格芳、小林正明、金谷健太郎

## ■ ゼミの学生数

クラス全体 17 名、個別ゼミ 2-3 名　（クラス全体と少人数の個別ゼミを組み合わせて実施）

## ■ 実　施　内　容

第 1 回　（対面授業）
第 2 回　（対面授業）
第 3 回　（対面授業）
第 4 回　（対面授業）
} 個別ゼミ
第 5 回　基礎教養ゼミ（１）　学科の学修について
第 6 回　基礎教養ゼミ（２）　学科教員紹介
第 7 回　基礎教養ゼミ（３）　大学祭イベントの企画書をつくろう
第 8 回　基礎教養ゼミ（４）　大学祭イベントの計画書をつくろう
第 9 回　特別講義「社会人として備えておくべきことは何か」：マツダエース㈱　坪岡　淳　講師
第 10 回（対面授業）
第 11 回（対面授業）
第 12 回（対面授業）
第 13 回（対面授業）
第 14 回（対面授業）
} 個別ゼミ
第 15 回　特別講義「企業における開発･設計」：ダイキョーニシカワ㈱　松岡大輔　講師
第 16 回　教養講座(1)　「半世紀を経て CG は情報化社会の基盤技術に進展」（西田友是講師）
第 17 回　教養講座(2)　「石橋湛山と私」（田中秀征講師）
第 18 回　教養講座(3)　「わが国の保健医療福祉の動向と今後の展望
～保健医療福祉専門職に期待する役割～創傷（ケガ）の処置方法」（山本 光昭講師）
第 19 回　教養講座(4)　「音楽と創造力の相互関係　～ヨーロッパの音楽、演奏を通して～」
（後藤　博亮講師）
第 20 回　教養講座(5)　「海の哺乳類について」（田島　木綿子講師）
第 21 回　企業見学会　（アイメックス）

## ■ 教養ゼミの成果等

〇木村ゼミ

初年次教育として、大学生活への適応や注意点、基礎力の育成と大学生活の目標、将来計画等をテーマとして取り扱った。第 5 回～第 9 回、第 15 回、第 21 回は、学科導入教育、グループワーク、社会人体験談、企業見学等について 1 年次生クラス全体で実施した。毎回の授業において、説明・問題提起、考察、整理、プレゼンテーション、質疑のプロセスを経るようにして、学生が自分で考えること、プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視している。

〇真鍋ゼミ

最初の 4 回は配属の 3 人に対して個別ゼミで大学生活を始めるための単位の取り方など基本的な事を説明した。第 4 回目は図書館を見学した。5 回から 8 回目までの基礎教養ゼミは 1 年次生全員で教員の研究紹介や、中東先生の御担当で話し合いや討論を行った。7 月からは個別ゼミに戻り、数学を

題材にして、パソコンを持参し、数式入力やグラフ作成を行った。そしてパワーポイントによるプレゼンテーションを行った。また会社の説明や企業見学により将来を考える機会になった。

〇坂口ゼミ
　第1回～第4回では個別ゼミで自己紹介の方法、学生生活、学習スキル、図書館の利用について説明とディスカッションを行った。第5回～第8回では基礎教養ゼミとして学年全体で学修内容等の説明やグループワークを実施し、第9回と第15回では企業人による特別講義、第21回では企業見学を実施した。また、第10～14回では個別ゼミでクリーンエネルギーをテーマに情報収集・分析を行い、プレゼンテーションを実施した。本授業を通じて、専門分野の学修意欲を向上する機会になったと思われる。

〇加藤ゼミ
　第 1～4 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉学・生活面で進むべき方向を理解させた。第5～9回では、基礎教養ゼミとして大学教育の意味、創造性を醸成させた。第10～14回では、デジタルものつくりの体験として、３D CAD で設計および３D プリンタで制作をした。

〇中東ゼミ
　このゼミでは、最後にこの授業を通じて学んだことや感想についてのレポートを提出してもらっている。受講生の主な感想等は以下の通りである。
・自己理解を深めることを今のうちからしておきたい。
・パワーポイントでの資料の作り方がわかった。
・車を運転するうえで安全確認を徹底して急発進急ブレーキなど、急な動作をなるべくしないことが大事。
・月別の手紙のあいさつの違いは初めて知った。
・お酒やたばこは気を付けようと思う。（調子に乗らない）

〇中村ゼミ
　第1回目から4回目は、初年次教育として大学の施設、設備について、大学生活について、大学での学習方法について学んだ。さらに大学生活が始まって数週間のうちに感じた疑問などを挙げ、互いに解決できるよう話し合った。
第10回目から14回目は、今後の大学生活をどのように過ごしたいかについて希望進路なども踏まえて話し合った。そして、就職すると想定して就職を希望する企業をホームページなどからどのような企業なのか調査を行い、互いに調査内容を発表しあった。さらに、その企業へ就職するために必要な大学生活について議論した。

〇小林ゼミ
　前半は、大学での勉強方法や学生生活、就職活動などについても説明を行った。SGD 形式で実施したことにより学生通しのコミュニケーションをとることができより深く理解ができたものと思われる。後半は、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。 モノづくりに挑戦することで創造する楽しさや達成感を得ることができたと思われる。

〇金谷ゼミ
　本授業では、専門学習に必要なコンピュータの基礎や表計算ソフトを用いたデータ処理、コンピュータネットワークの基礎、ワープロを用いた文書作成、ビジュアル表現法、発表技術等を学んだ。また、レポートやプレゼンテーションの指導も行った。このゼミを通して、以下の能力が学修できたと考えられる。
　1. ネットワークリテラシーを理解し、E-mail や検索エンジンを活用できる。
　2. ワープロソフトを活用して、報告書等を作成できる。

3. 表計算ソフトを活用して、合計や平均などの計算および結果から適切なグラフの作成ができる。
4. プレゼンテーションソフトを活用して、スライドの作成ならびに発表をすることができる。

## ■ 問題点、改善点、次年度までの対応策

〇木村ゼミ
授業後のアンケート結果等により、授業内容に関する意義は理解されており、学修効果も確認できたと思われる。特に問題点は見当たらないが、学生の意欲向上に繋がる授業内容を検討したい。

〇真鍋ゼミ
個別ゼミの 3 人であるが、話相手が自然と 2 人と 1 人に分かれてしまい、学生同士のコミュニケーションは十分ではなかったと感じる。しかし数学の基礎については問題を多く解き、パソコンでグラフなど書きプレゼンテーションで皆に説明することができた。ディスカッションがまだ十分ではないと感じる。

〇坂口ゼミ
全体ゼミや個別ゼミにおいて初年次教育として様々な学びの形態で実施したことから、有意義に学修に取り組めたものと思われる。教員と学生や学生同士のコミュニケーションを一層図ることに努めたい。

〇加藤ゼミ
第 1～4 回の個別ゼミは、学生が大学へはやくなじむことができるよう留意して行った。第 10～14 回の個別ゼミ（BYOD パソコンを活用したものつくり授業）は学生の学習意欲が高く、効果的な授業とすることができた。問題点は特に見当たらなかったが、学生の満足度を高めるため、学習意欲が高い BYOD パソコンを活用したものつくり授業の充実を検討する。

〇中東ゼミ
上述のように学生自身はそれなりに学んでくれたものと考えている。引き続き学生にとって有意義な教養ゼミを行っていきたい。

〇中村ゼミ
少人数であるため、全員が積極的に発言、意見交換を行えた。学生の性格によっては教員側から話題提供等の手助けが必要な場合も発生すると思われる。後半の就職に関する調査も、学生らの希望職種が定まっていたため順調にプレゼンテーションまで進めることが出来たが、そのような希望職種が定まっていない場合は教員側から何か提案するテーマを用意する必要があると思われる。

〇小林ゼミ
前半は、学生間でのコミュニケーションをとるため積極的に会話をするように心がけた。その結果、学生間だけでなく教員と学生とのコミュニケーションもとることができたため特に課題はなかった。
後半は、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりを行った。複雑なテーマではなかったが制作に時間がかかってしまった。学生たちの意欲や好奇心を継続できるような教材を検討する。

〇金谷ゼミ
前年度の反省から、授業の難易度を低くし、教える量や課題を減らしたが、それでも学生は多少難しく感じたようだった。しかし、新しいことが分かり、楽しかったという意見もあった。次年度はさらに授業内容を簡単化し、教える量や課題を減らしたい。

# 生命工学部　生物工学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）松崎浩明
　山本覚、久冨泰資、岩本博行、佐藤淳

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

学生数：17 名

## ■ 教養ゼミの目的

生物工学科の教養ゼミは、初年次教育として受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行すること、セミナーや大学祭を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ること、目標を立て達成することで自己を成長させること、一般教養を高めることなどを目的としている。

## ■ 実　施　内　容

＜前期＞
第 1 回　教養ゼミガイダンスおよびオリエンテーションの補足
　　大学における履修と学修　-「大学での履修」や「生徒と学生の違い」を考える-
第 2 回　学生生活について　-どのような学生生活を送るかを考える、自己管理術、年間目標の作成-
第 3 回　大学での学修に向けて　-学修スキル（講義の聴き方、ノートの取り方）を学ぶ-
第 4 回　大学での学修に向けて　-書物、新聞、インターネット、および学術雑誌による情報収集を学ぶ-
第 5 回　大学での学修に向けて　-学修スキル（リーディング）を学ぶ-
第 6 回　第 1 回教養講座　西田　友是先生　「半世紀を経て CG は情報化社会の基盤技術に進展」
第 7 回　バイオの歴史　-古典的バイオについて知る-
第 8 回　バイオの歴史　-現代バイオについて知る-
第 9 回　バイオの歴史　-ニューバイオについて知る- 遺伝子組換え食品の安全性について考える
第 10 回　生物工学科における研究　-大学ホームページ、研究室訪問による研究の調査-
第 11 回　生物工学科における研究　-研究紹介の発表原稿の作成-
第 12 回　第 2 回教養講座　田中　秀征先生　「石橋湛山と私」
第 13 回　大学祭学科展示の企画　-過去の展示企画の紹介、過去の展示企画に対する意見・感想-
第 14 回　大学祭学科展示の企画　-展示企画を考える-
第 15 回　前期の学修・生活を振り返って　-前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-

＜後期＞
第 16 回　第 3 回教養講座　山本　光昭先生　「わが国の保険医療福祉の動向と今後の展望
　　～保険医療福祉専門職に期待する役割～」
第 17 回　夏休みの出来事のまとめ
第 18 回　大学祭の準備　-大学祭の展示物の作成（１）-
第 19 回　大学祭の準備　-大学祭の展示物の作成（２）-
第 20 回　大学祭での展示発表
第 21 回　第 4 回教養講座　後藤　博亮先生　「音楽と創造力の相互関係～ヨーロッパの音楽、演奏を通して」

第 22 回　大学祭の総括　−大学祭展示発表の成果、来年度課題のグループディスカッション、発表−
第 23 回　学修スキル　−実験ノートの作成法、実験データの整理法、実験レポートの作成法を学ぶ−
第 24 回　最近のトピックス
第 25 回　第 5 回教養講座　田島　木綿子先生　「海の哺乳類について」
第 26 回　植物の栽培　−福山大学ワインプロジェクト概説−
第 27 回　キャリア設計　−卒業後の進路の可能性について知る、挨拶、マナー、礼儀を知る−
第 28 回　キャリア設計　−資格取得やインターンシップについて知る−
第 29 回　2 年次の学修に向けて　−将来の夢を達成するための学修計画を立てる−
第 30 回　1 年次の学修・生活の総括　−学修・生活を総括し、どの様な教養を身に付けたか考える−

## ■ 成果について

（1）教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、「大学での履修」、「生徒と学生の違い」、「学修スキル」の解説、大学における学生生活の指導を行うことで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。
（2）年間目標を設定することで充実した生活を送れ、目標を達成することで自己を成長させることができた学生がある程度いると思われる。
（3）古典的バイオと現代バイオを紹介する講義の受講や生物工学科における研究の調査によって、生物工学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に最近のトピックスに関する情報を収集して、その信憑性を評価した。
（4）講義の聴き方、ノートの取り方、リーディング、実験ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。
（5）大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって協調性、自主性、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が向上した。また、教員、友人、先輩との信頼関係を構築できた。
（6）挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。
（7）卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、２年次の学修計画を立てた。

## ■ 次年度への課題

（1）大学祭の準備で他の学年との連携がスムーズに行えず、準備が効率良く行えなかった。他の学年と合同で準備を行える機会を設け、準備を効率良く行い、協調性、自主性、コミュニケーション力などの育成効果を高めたい。
（2）アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明をできなかった学生が幾らかいた。次年度はさらに積極的に行動するように指導したい。
（3）最近のトピックスについては、内容の要約やトピックスに対する自身の意見を提出する機会をうまく作れなかった。何回か課題を提出することで幅広い教養を身に付ける効果があると思われるので、提出の機会を設けたい。

# 生命工学部　生命栄養科学科

## ■ 担当者氏名

（代表）石井香代子
菊田安至、田中信一郎、井ノ内直良、西　彰子、吉田純子、村上泰子、山田直子、中﨑千尋

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

学生数：２７　　ゼミの学生：5～6 名　　（前期：クラス全体と少人数制ゼミを組合わせて実施）

## ■ 前期実施内容

第 1 回：大学生活を始めよう①　学生生活指導　（担任；吉田、西、山本）
第 2 回：大学生活を始めよう②　メディアリテラシー　（担任；吉田、西、山本）
第 3 回：大学生活を始めよう③　大学施設を知る　図書館見学、研究倫理　（井ノ内、菊田）
第 4 回：大学生活を始めよう④　コミュニケーション力（演習）、自主的態度の醸成　（井ノ内、菊田）
第 5 回：第 1 回教養講座：半世紀を経て CG は情報化社会の基盤技術に進展　講師：西田友是氏
第 6 回：管理栄養士をめざす基礎講座①　臨地実習から考えよう、グループワーク　（村上、中﨑）
第 7 回：管理栄養士をめざす基礎講座②　将来を意識しよう　グループ学修　（村上、中﨑）
第 8 回：大学祭を楽しむ①　大学祭参加のオリエンテーション、企画・立案　（担任；吉田、西）
第 9 回：管理栄養士をめざす基礎講座③　調理学と給食管理学、グループ学修　（石井、中崎）
第 10 回：管理栄養士をめざす基礎講座④　管理栄養士と栄養学、生化学、グループ学修（井ノ内、菊田）
第 11 回：第 2 回教養講座：政治の動向　講師：田中秀征氏
第 12 回：管理栄養士をめざす基礎講座⑤　栄養計算の方法１、成分表の理解　（吉田）
第 13 回：管理栄養士をめざす基礎講座⑥　栄養計算の方法２、計算演習①、栄養計算ソフト　（吉田）
第 14 回：管理栄養士をめざす基礎講座⑦　栄養計算の方法３、計算演習②、例題演習　（吉田）

## ■ 後期実施内容

第 15 回：第 3 回教養講座：わが国の保健医療福祉の動向と今後の展望　講師：山本光昭氏
第 16 回：大学祭を楽しむ②　準備、実施計画、役割分担　（担任：村上、中﨑）
第 17 回：大学祭を楽しむ③　準備をしよう、クラスメイトとの協働の体験　（担任：村上、中﨑）
第 18 回：大学祭を楽しむ④　準備をしよう、クラスメイトとの協働の体験　（担任：村上、中﨑）
第 19 回：大学祭を楽しむ⑤　大学祭参加、クラスメイトと協働し訪問者を歓迎　（担任：村上、中﨑）
第 20 回：大学祭を楽しむ⑥　大学祭参加、クラスメイトと協働し訪問者を歓迎　（担任：村上、中﨑）
第 21 回：第 4 回教養講座：音楽と創造力の相互関係　講師：後藤博亮氏
第 22 回：大学祭を楽しむ⑦　大学祭を振り返る　企画を評価しよう　（担任：村上、中﨑）
第 23 回：管理栄養士の仕事を知る①　病院、福祉施設、学校等の業務を調査する　（石井、山田、中﨑）
第 24 回：管理栄養士の仕事を知る②　病院、福祉施設、学校等のグループ発表　（石井、山田、中﨑）
第 25 回：第 5 回教養講座：海生哺乳動物と人間　講師：田島木綿子氏
第 26 回：管理栄養士の仕事を知る③　管理栄養士として人と向き合うために　（田中）
第 27 回：管理栄養士をめざす基礎講座⑧　卒業研究発表会を聴講し、将来をイメージしよう　（全教員）
第 28 回：管理栄養士の仕事を知る④　職域別管理栄養士と交流（学校、行政）　（石井、山田、中﨑）
第 29 回：管理栄養士の仕事を知る⑤　職域別管理栄養士と交流（病院、福祉）　（石井、山田、中﨑）
第 30 回：１年を振り返る　この１年を振り返る、自らの成長と次年度への抱負　（担任：村上、中﨑）

## ■ 教養ゼミの成果

令和５（2023）年は、コロナウイルス感染症対応は５月に社会的に行動制限解除となった。このため、授業は全面的に対面授業に戻された。前期において、大学生活への導入など進め、授業の受け方やノートの取り方など、大学生活における学修の基本事項を指導した。また、管理栄養士の基礎知識を学び、プロフェッショナルとしての意識付けのスタートアップ授業を行った。

後期は、大学祭を機会にコミュニケーション能力の向上を目指した。栄養関連の展示物をクラスメイトと協議しながら、大学祭の展示素材作成ができた。社会で活躍する管理栄養士の先輩から、直接学生へ業務内容や工夫など聞く、質問する等将来の専門職の理解を深めた。また、卒業研究発表の聴講から、様々研究活動を学修できた。

## ■ 問題点，改善点，次年度に向けた課題

新型コロナ感染症の行動制限解除により、活動が自由にでき、学生同士の協働もスムースに実施できた。教養講座も対面で聴講できたことは講師の考え・経験を近しく見聞し印象も深まったと推察する。

管理栄養士の専門職としての意識付けも将来の職業選択には重要である。そのことはまた、今後の学修課程の進行で経験する様々な専門科目や実験・実習での学びがあり、学修のモチベーションにも影響を与える。学生の理解や意識の向上を目指した対面授業の実施で今後の学修意欲の維持を期待する。ただ、学力向上と共に学力不足の学生に対する担任からの支援を充実させる。担任との面談など定期的に行い、コミュニケーションの機会を作った。学生の不安感や問題点の把握に努めることが重要であろう。

# 生命工学部　海洋生物科学科

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）　三輪泰彦

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数：16
ゼミの学生数：6-7 名
全学生数：110 名

## ■ 前期実施内容

1）全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業（セレッソの小テスト、レポートの提出対応など)、試験、学習支援等の補足説明、セキリティ―ソフトのインストール対応、研究者（学生）に求められる研究倫理の講習
2）自己紹介
3）個人面談–学生生活、欠席調査など
4）図書館の利用法によるガイダンス
5）大学祭の展示企画－１　テーマおよび展示の原案作成–スモールグループディスカッション
6）大学祭の展示企画－２　テーマおよび展示の原案作成–スモールグループディスカッション
7）大学祭の展示企画－３　テーマの決定–全員でディスカッション
8）大学祭の展示企画－４　大学祭の物品リストの作成–　テーマごとにディスカッション
9）前期定期試験への心構え

## ■ 後期実施内容

1）大学祭の計画－工程表の作成
2）大学祭の準備－１　ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
3）大学祭の準備－２　水槽のセットアップ、金魚の飼育、リトルマリンクラフトに用いる折り紙やプラ板の作成、魚類に関するクイズに必要な写真やパネルの製作、顔はめパネルの製作等
4）大学祭の準備－３　会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
5）大学祭－１　来場者への対応
6）大学祭－２　あとかたづけ
7）個人面談－欠席調査など
8）大学祭の反省会
9）後期定期試験への心構え

## ■ 教養ゼミの成果等

1）本学の活動指針に基づき、2022 年度に引き続き前期から 1 学年 110 名を大講義室に集めての対面授業を実施することができた。新型コロナウィルス感染症の感染対策をとりながら、スモールグループディスカッションによる少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
2）学生生活や教務（履修方法、欠席調査、ゼルコバやセレッソなど ICT サービスによる操作方法、定期試験への対応など）の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。

３）学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、平成27年度からは、その司会進行を学生に任せている。今年度も引き続き学生が立候補して３名が司会進行役を務めてくれた。
４）プロダクトとして大学祭の展示企画（３つのテーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。
テーマ：１）リトルマリンクラフト・２）さかなＱチョン・３）金魚すくい（定番）
５）今年度も昨年度と同様、テーマごとに学生が積極的にリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導力を発揮してもらった。特に今年度に関しては、１テーマあたりの学生数が30～35名と非常に多い中、各テーマのリーダーがリーダーシップをしっかりと発揮し、多人数の学生を統括し、準備や大学蔡の運営に貢献してくれたことは評価できる。
６）大学祭を通じて学生同士の団結力（仲間意識や絆）を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。大学祭を通じて友人がつくることができた。一方、同級生に指示する際にはリーダーシップやコミュニケーション力の大切さを学ぶための良い機会を与えることができた。
７）大学祭の来場者（小中学生や高齢者、親子連れなど）への応対を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、知識を全くもたない人（たとえば金魚の飼い方など）に興味を持って理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいのか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
８）大学祭の水槽や展示物、展示室などのかたづけ作業では男子も女子も、積極的に行ってくれたので責任感をもたせることができた。
９）学生１人ひとりに、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらい、自己評価を行った。

## ■ 問題点，改善点，対応策

１）令和５年度は令和４年度に続いて、例年の「大学祭の学科の展示・企画」について、各グループで提案された企画案について、１学年（110 名）を介してプレゼンテーションや全体討議を行うことができた。令和６年度も学科全体で感染症の防止対策と学生の健康管理を徹底して行い、従来のキャンパスライフに戻していきたい。
２）大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。その際、担任にその旨、報告・連絡させた。一方でテーマごとに一部の学生の負担（準備や当日の展示運営）が大きいことも問題となった。
３）大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり（目標をしっかり理解してもらう、学生の意見や考えを発表するプレゼンテーション能力を身につけること、積極性を引き出す手法を考えることなど）を継続して行っていく。
４）昨年度と同様に、学生へのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
５）教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では学生実験や会議、出張等によって一部の教員はスケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、「Zoom」などの ICT サービスを積極的に活用して個人面談や遠隔授業を取り入れ、きめ細やかな学生生活のサポートを行っていく。

# 薬　学　部

## ■ 担 当 者 氏 名

（代表）山下 純
（担当）井上 裕文、前田 頼伸、高根 浩、猿橋 裕子、広瀬 雅一（薬学入門担当）
　　秦 季之、木平 孝高、五郎丸 剛、松岡 浩史（クラス担任）

## ■ ゼミ数，ゼミの学生数

新入生 106 名に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

## ■ 実 施 内 容

1　薬学入門Ⅰ（担当責任者：山下純）

4 月 12 日と 5 月 16 日は、外部講師による対面授業を行った。（肌色と黄色の背景）。4 月 10 日、17 日、24 日、5 月 8 日、22 日、7 月 10 日、19 日は、学年を 3 つのクラスに、クラスをさらに 3 つのグループに分けて、グループ単位でスモールグループディスカッション（ＳＧＤ）を行い、薬学入門担当教員（１名）ならびに（または）クラス担任（１名）がチューターとしてクラスごとに指導を行った（青色背景）。6 月 12 日～7 月 5 日は、グループ単位で病院薬剤部及び保健調剤薬局を 1 施設ずつ訪問し早期体験学習を実施した（緑色背景）。

※日程・授業概要は別紙参照

2　教養講座（担当責任者：山下純）

第１回教養講座
令和 5 年 5 月 24 日（水）
講師：西田 友是 氏（プロメテック CG リサーチ（旧ドワンゴ CG リサーチ）所長、東京大学名誉教授、広島修道大学名誉教授、元福山大学教授）
演題：半世紀を経て CG は情報化社会の基盤技術に進展

第２回教養講座
令和 5 年 7 月 6 日（木）
講師：田中 秀征 氏（福山大学客員教授）
演題：石橋湛山と私

第３回教養講座
令和 5 年 9 月 29 日（金）
講師：山本 光昭　氏（社会保険診療報酬支払基金 理事）
演題：わが国の保健医療福祉の動向と今後の展望～保健医療福祉専門職に期待する役割～

第４回教養講座
令和 5 年 10 月 31 日（火）
講師：後藤 博亮 氏（チェコ国立ブルノフィルハーモニー管弦楽団 第 1 ヴァイオリニスト）
演題：音楽と創造力の相互関係～チェコの音楽、演奏を通して～

第５回教養講座
令和 5 年 12 月 4 日（月）
講師：田島 木綿子　氏（国立科学博物館動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹）
演題：海の哺乳類について

## ■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

・学生ー教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
・薬学生としてのモチベーションの醸成
・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
・能動学習のための動機づけ
・問題解決能力の向上
・挨拶、マナー等の社会性の涵養

## ■ 問題点，改善策等

・学生のアンケート調査によって、改善を行っている。

# 2023年度「薬学入門Ⅰ」

別紙3

| 日程 | 4月10日(月) | 12日(水) | 17日(月) | 19日(水) | 24日(月) | 26日(水) | 5月1日(月) | 3日(水) | 8日(月) | 10日(水) | 15日(月) | 16日(火) | 17日(水) | 22日(月) | 24日(水) | 29日(月) | 31日(水) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教室 | 34号館2階<br>講義室2、研修室１＆２ | 34号館2階<br>研修室１＆２ | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 予備日 | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 抗体検査<br>(五郎丸先生より別途連絡があります) | 予備日 | 憲法記念日 | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 予備日 | 開学記念日 | 34号館2階<br>研修室１＆２ | 予備日 | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 予備日 | 予備日 | 予備日 |
| 3限 | P1、P2、P3 | 菅奈奈美<br>P1、P2、P3 | P1、P2、P3 | | P1、P2、P3 | | | | P1、P2、P3 | | | 山中智香<br>P1、P2、P3 | | P1、P2、P3 | | | |
| 4限 | P1、P2、P3 | 菅奈奈美<br>P1、P2、P3 | P1、P2、P3 | | P1、P2、P3 | | | | P1、P2、P3 | | | 山中智香<br>P1、P2、P3 | | P1、P2、P3 | | | |
| 5限 | | | P1、P2、P3 | | P1、P2、P3 | | | | P1、P2、P3 | | | | | | | | |
| 授業内容 | 「今心にあること（希望、期待、不安）」についてSGD（ＫＪ法） | 【ヒューマニズム・コミュニケーション】行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする | 「人にやさしい薬・良い薬（薬の種類や分類）」についてSGD（ＫＪ法） | | 「薬剤師の仕事の種類」についてSGD（マインドマップ） | | | | 「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてSGD（イメージマップ） | | | 【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ | | マナー | | | |

| 日程 | 6月5日(月) | 7日(水) | 12日(月) | 14日(水) | 19日(月) | 21日(水) | 26日(月) | 28日(水) | 7月3日(月) | 5日(水) | 10日(月) | 12日(水) | 17日(月) | 19日(水) | 24日(月) | 26日(水) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教室 | 中間試験期間 | | | | | | | | | | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 予備日 | 海の日 | 34号館2階<br>研修室１＆２<br>ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ室1＆2 | 予備日 | 予備日 |
| 3限 | | | 病院の薬剤部を見学（いずれかの日） | | 保険薬局を見学（いずれかの日） | | | | | | P1、P2、P3 | | | P1、P2、P3 | | |
| 4限 | | | | | | | | | | | P1、P2、P3 | | | P1、P2、P3 | | |
| 5限 | | | | | | | | | | | P1、P2、P3 | | | P1、P2、P3 | | |
| 授業内容 | | | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 体験学習 | 発表準備 | | | 発表会 | | |

大 学 教 育 セ ン タ ー